

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた単元構想〈小・国語〉

特別研修員 国語 黒岩 佐登美（小学校教諭）

単元名 身の回りのことを報告する文章を書こう「気になる記号」（第3学年） **全12時間計画**
単元のねらい

友人と交流しながら目的や相手を意識した報告文を書き、相手意識をもった推こうができるようにする。

単元構想の意図

本単元では、目的や相手を意識しながら文章を書くことと、相手意識をもった推こうができる力を身に付けることを目的としています。つかむ過程では、児童が「伝えたい」「知らせたい」と思えるような資料を提示することで、単元を通して意欲が継続できるようにします。追究する過程では、主体的・対話的に学習を進めることができるよう、モデル文の提示や推こうのチェックポイントなどを作り、読み手を意識して文章を書いたり推こうしたりする技能を身に付けるようにします。まとめる過程では、単元を通して学習したことを用いて他教材で実践させることで、身に付けた力を自覚させるとともに、生活の中でも実践してみたいという意欲付けができるよう構成しました。

| | | | |
|----------|---|---|---|
| 過程 | 主な学習活動 | | 相手意識を高める導入の工夫 |
| | つかむ(1) | <p>1. 単元の課題を把握する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1年生にとった記号アンケートを見る。 ○単元の課題を決め、学習の見通しをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>友人と交流しながら1年生にも伝わるような報告文を書こう。</p> </div> | <p>児童が、「伝えたい」「知らせたい」という気持ちもてるよう、報告文を書く必要性を感じるような資料を提示する。</p> <p style="text-align: center;">学習のゴールを提示</p> <p>1単位時間ごとのつながりを意識できるよう、学習計画表を毎時間提示できるようにしておく。また、最終的に完成させる報告文を見せることで、「できそうだ」「やってみよう」といった意欲をもたせ、主体的に活動できるようにする。</p> |
| 追究する(10) | <p>2. 課題を追究する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○集めた記号を分類し、記号の意味や特徴に気付く。 ○報告文の組立てを理解する。 ○下書きを書く。 ○教師のモデル文を参考に見直しポイントを作成する。 ○互いに推こうする。 |  <p style="text-align: center;">【短冊形式のモデル文】</p> | 主体的に文章が書ける工夫 |
| | <p>【友人の報告文のチェック】</p>  <p>【修正点の交流】</p>  | <p>誰もが同じレベルで文章が書けるよう、報告文の組立てを全体で指導するとともに、文章構成の順番を短冊形式で色分けしておくことで、「今は何を書いているのか」「どのような内容を書けばよいのか」が明確に分かるようにする。</p> <p>また、教師が書いたモデル文や内容のポイントを掲示しておくことで、児童が参考にしながら主体的に文章を書けるようにする。</p> <p style="text-align: center;">対話的な推こうの工夫</p> <p>相手意識をもった推こうが主体的にできるよう、「見直しポイント」を使いながら互いの報告文を交流させる。「意味が分からない」「伝わらない」といった、内容に踏み込んでの推こうができるよう、誤字脱字の修正は個人で行わせておく。</p> <p>赤や青のペンを使いながら修正点をマークし、交流させることで、一人では気付くことができなかった点にも気付くことができるようにする。</p> <p style="text-align: center;">学んだことの自覚</p> <p>1年生から感想を聞くことで、自分の書いた報告文が伝わりやすかったか振り返らせる。また、1年生から受けた感想を基に、どのようなことができるようになったのかクラスで共有することで、単元を通してできるようになったことを個人の力として自覚できるようにする。</p> | |
| まとめる(1) | <p>3. 単元を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ○相手を替えた文章を書く。 ○変化を見取り、成果を自覚する。 <p style="text-align: center;">【相手を変えた報告文】</p> | <p style="text-align: center;">気になる記号を伝えよう</p>  | 学んだことの活用 |
| | <p>単元を通して身に付けた力を児童が実感できるよう、他教材で実践させる。本単元で学習した内容を応用しながら児童が主体的に書けるよう、文章の構成を同じにしておく。</p> <p>相手を替えて書いた報告文は、どのような違いが見られたのか発表させることで、児童自身に単元を通して身に付けた力を実感させるとともに、自分の力だけでできたという自信を付けさせ、他活動でも活用してみたいという意欲をもたせるようにする。</p> | | |

指導例：『気になる記号』（第3学年 第1時）

1 教材文やモデル等と出会い、単元の課題を設定する。

○記号の必要性について理解し、相手意識をもつ。

T：初めての場所でトイレに行きたいとき、どうやって探しますか。

S：トイレのマークを探している。男と女が書いてある。

T：街にはいっぱいマークがありますね。このマークの意味を知っていますか。



S：見たことあるけど、詳しいことは知らない。

T：3年生も知らない記号がたくさんあるね。みんなの身近な人で記号の意味を1番教えてあげた方がよい人はだれ。

S：1年生。1年生は学校が初めてだからいろいろな記号を知らないかも。

T：1年生に記号のアンケートを取ってみました。

S：知っている記号はたくさんあるけど、意味までは知らないかも。調べて教えてあげた方がよいと思う。

【1年生にとって記号アンケート】

単元の課題 友人と交流しながら1年生にも伝わるような報告文を書く。

2 本時のめあてをつかむ。

○今回の授業を通して、誰に読んでもらうかを考えながら、調べたことを報告する文章を書くことを知る。

めあて 学習の流れを確認して、どのような報告文を書くか見通しをもとう。

3 学習の見通しをもつ。

○教科書を読み、学習の流れを確認する。

○学習計画表で活動のイメージをもつ。



【教師が書いたモデル文の提示】



4 本時のまとめ・振り返りをする。

○本単元で活動する内容と、身に付けた力について再確認する。

☆1年生に報告するまでの時間が分かった。早く書きたい。

☆登校するとき注意できるよう、通学路にある記号を教えてあげたい。

【振り返りカードの蓄積例】

| 日 | 6月25日 | 6月26日 | 6月27日 | 6月28日 | 6月29日 | 6月30日 | 7月1日 | 7月2日 | 7月3日 | 7月4日 | 7月5日 | 7月6日 | 7月7日 | 7月8日 | 7月9日 | 7月10日 | 7月11日 | 7月12日 | 7月13日 | 7月14日 | 7月15日 |
|------|---------|-------------|-------------|------------|----------|----------------|--------------------|----------------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 振り返り | 本番に書いた。 | 分らない所を気づけた。 | 原稿をいじってあげて。 | みんなも書いてみた。 | 書いてよかった。 | 一年生にぼうくく文を書いた。 | 一年生にぼうくく文を読んでもらった。 | 一年生にぼうくく文を教えた。 | 一年生に教えた。 | 一年生に教えた。 | 一年生に教えた。 | 一年生に教えた。 | 一年生に教えた。 | 一年生に教えた。 | 一年生に教えた。 | 一年生に教えた。 | 一年生に教えた。 | 一年生に教えた。 | 一年生に教えた。 | 一年生に教えた。 | 一年生に教えた。 |

指導のポイント

主体的に活動するための導入の工夫

○課題解決へ向けて主体的な取組になるよう児童に「知ってる」「分かる」といった気持ちを想起させる教材を提示するとともに、「なんだろう」「知ってるけど詳しく知らない」と解決させたいような身近な課題を提示する。

相手意識をもたせる工夫

○事前に対象からアンケートを取ったりインタビューしたりして相手意識を明確にすることで、児童に書くことに対する必要感をもたせるようにする。

意欲的に活動させるためのゴールを提示

○1単位時間の学習のつながりを意識させるために、学習計画を作成し、教室内に掲示しておくか、学習ごとに提示できるようにしておく。

○成果物の完成形を見せることで、「できそうだ」「やってみたい」といった意欲をもたせ、主体的に活動できるようにする。

振り返りの蓄積

○1単位時間の学習の中で、「分かったこと」「できるようになったこと」などを1枚のワークシートに蓄積させることで、身に付けた力を振り返ることができるようにしておく。

指導例：『気になる記号』（第3学年 第8時）

- 1 本時のめあてをつかむ。
○本時の活動について学習計画表で知る。

めあて 1年生にも分かりやすい報告文になっているか、互いにアドバイスし合い、下書きを見直そう。

- 2 課題を追究するために個で考える。
○誤字・脱字の修正を個人で行う。
○見直しポイントを基に友人の報告文を読みながら赤鉛筆で修正点を書き込む。



【友人の報告文にチェックを入れる】

| | 見直しポイント | チェック |
|----------|--|------|
| ① | 漢字やひらがながまちがいはないか。 | ○ |
| ② | 漢字やカタカナには、読みがなが書いてあるか。 | △ |
| ③ | 句点(。) 読点(、)がしっかり書いてあるか。 小さい「っ」をわすれていないか。 | ○ |
| ④ | 図が大きくて見やすいか。番号が書いてあるか。 | ○ |
| ⑤ | むずかしい言葉はないか。 | △ |
| つたえてほしい事 | ちゃんとふりがなをつけ、言葉も 分かりやすくしたほうが1年生に やすくきます。 | |

- 3 グループや学級で、課題を追究するための方法を共有し、焦点化を図る。
○見直しポイントカードを交換し、疑問点を聞いたり、直したりする。
○友人からのアドバイスを基に、青鉛筆で報告文の書き直しをする。



【疑問点を質問し、理由を答える】

S：どうしてここにチェックがしてあるの。
S：記号の形は丸なのに、文章の中に三角についての説明があるから、よく分からないんだよ。
S：丸の中にある三角の記号についても意味を書いたのだけど、分かりにくいから書き直すよ。

- 4 本時のまとめ・振り返りをする。
○学習の成果を振り返り、次回の学習に意欲をもつ。

T：友達との交流を通して自分の報告文にどのような変化がありましたか。
S：1年生に合った言葉遣いに直すことができて、読みやすくなった。
S：自分では分からなかった難しい言葉や伝わりづらいところに気付いて、直すことができた。
T：今日の授業を通して、1年生が読みやすい文章について考え、直すことができるようになった子がたくさんいるということですね。

☆友達と交流したら自分では分からないところに気付く、1年生には難しいと言われたところを直すことができた。
☆たくさん直したから早く清書がしたい。

指導のポイント

学習のつながりを意識させる
学習計画の活用

○学習計画表や前時のノート・ワークシートなどを見直させ学習のつながりを意識できるようにする。

対話的な推こうの工夫

○児童が作成した見直しポイントを掲示したり、教師が作成したモデル文から既習事項を振り返ったりすることで、読む相手を再度意識させる。
○内容をよりよくするための推こうができるよう、見直しポイントの誤字・脱字のチェックは先に個人で行わせ、「意味が分からない」「伝わらない」といった内容に踏み込んだ深い推こうができるようにする。

互いのよさに気付かせる
交流の場の設定

○疑問に思ったところを聞き返すことで、文章についての考えを深めさせるとともに、一人では気付かなかった点に気付くことができたよさを押さえ、交流することのよさを再確認させる。
○よい点やまねしたい点なども伝えることで、互いのよさを認め合えるようにする。

変容に気付かせる
振り返り

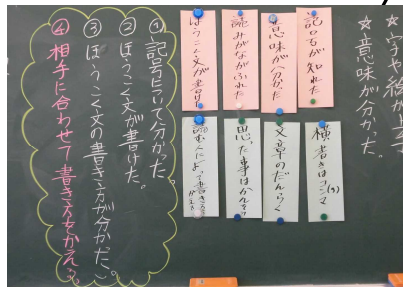
○本時の活動を振り返り、交流前後の変化を考えさせることで、学習の成果として実感させる。また、全体で押さえたい成果についてはクラス全体の成果として共通理解させる。

指導例：『気になる記号』（第3学年 第12時）

- 1 本時のめあてをつかむ。
 ○本時は、相手を変えて報告文を書く活動を通して、文章を書くときに気を付けることをまとめることを知る。

めあて 単元全体を振り返って、報告する文章を書くときに気を付けることをまとめよう。

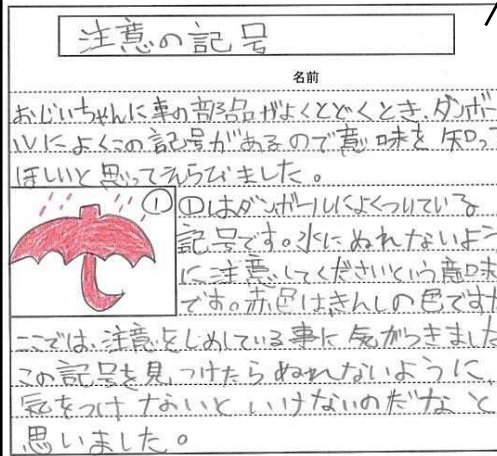
- 2 単元で学んだことを理解する。
 ○既習事項を振り返り、単元を通して学習してきたことを確認する。
 ○身近な大人で、記号を知らせたい相手について決める。
 ○伝えたい相手を意識しながら学習した構成や書き方を基に報告文を書く。



【板書例】

- T：誰に伝えてあげたい？
 S：ぼくは、仕事で段ボールを使うおじいちゃんのために水濡れ注意の記号を伝える。
 S：おじいちゃんだから字は大きく書こう。習った漢字をしっかりと使って書こう。

気になる記号を伝えよう



【相手を変えた報告文の例】

- 3 学んだことを一般化して理解する。
 ○どのようなポイントに気を付けて書いたか意見を共有する。
 ○身に付けた力が、どんな場面で活用できるか考える。
 T：今回の報告文は、どのようなところに気を付けて書きましたか。
 S：1年生には漢字を使わなかったり、難しい言葉を使わなかったりしたけど、おじいちゃんには字を見やすく大きく書いた。
 T：相手を変えて文章を書いてみて、どんなことが分かりましたか。
 S：読む人が違うと、それに合わせて書き方や内容を変えること。
 T：今回の授業で分かったことは、ほかのどの場面で活用できそう。
 S：社会科でスーパーマーケットに見学に行くから、お礼の手紙を大人に対して書くとき。
 T：社会科の学習の後に、今回習ったことを生かしてお礼の手紙を書きましょう。
 4 単元全体の振り返りをする。
 ○学習を通して身に付けた力と、日常生活の中で活用できそうな場面について再確認する。
 ☆報告する文章を書くときには、誰が読むのかを考えて書き方を変えることが分かった。
 ☆もっと、ほかの人にも書いてみたい。

指導のポイント

学びを自覚させる
成果の可視化

- 成果が目で見えて確認できるよう、単元を通してできるようになったことを、「分かったこと」「できるようになったこと」の二つに分けて考えさせ、色分けした紙などで掲示する。

学んだ技能を活用する
共通の場の設定

- 児童が単元を通して学んできた力を活用させる場面を設定することで、理解を深めるとともに、ほかの活動でも実践してみたいという意欲をもたせるようにする。
 ○前時に作った文章構成と同じにすることで、「こうすれば前よりよくなる」と主体的に技能を活用させ、単元を通して身に付けた力を実感できるようにする。

実践意欲につなげる
まとめと振り返り

- 学習後の自身の変容を捉えることで、学習を通してどのようなことができるようになったかを全体で確認しながら、自身の能力として自覚させるようにする。
 ○単元を通して身に付けた力が、ほかの学習や生活の中でどのように生かすことができるか考え、実際に活用させることで成果をより自覚できるようにする。

国語科学習指導案

平成30年6月 第3学年 指導者 黒岩 佐登美

I 単元名 身の回りのことを報告する文章を書こう「気になる記号」

II 学習指導要領上の位置付け

- (1) 主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 【知識及び技能(1)言葉の特徴や使い方に関する事項力】
- (2) 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているか確かめたりして、文や文章を整えること。 【思考力、判断力、表現力等 B書くことエ】
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。 【学びに向かう力、人間性等】

III 目 標

友人と交流しながら相手に合わせた報告文を書く活動を通して、次の指導事項が身に付けられるようにする。

- (1) 文章を簡潔に表現したり、文と文との内容のつながりを明瞭に表したりすることができる。 【知識及び技能(1)言葉の特徴や使い方に関する事項力】
- (2) 相手や目的を意識した表現になっているか確かめ、文章を整えることができる。 【思考力、判断力、表現力等 B書くことエ】
- (3) 主体的に文章を書こうとするとともに、自分の考えや思いや考えを伝え合おうとしている。 【学びに向かう力、人間性等】

IV 指導計画 ※別紙参照

V 本時の展開 (1/12)

1 ねらい 日常生活にある記号について考える活動を通して、1年生に伝わる報告文を書こうとする意欲をもてるようにする。

2 展開

| 学習活動 (分) | ○: 留意点 | 点線囲: 評価 | ☆: 振り返りの子供の意識 |
|---|--------|---------|---------------|
| <p>1 教材文やモデル等と出会い、単元の課題を設定する。(25分)</p> <p>○教師や児童の体験談を話すことで、自分自身の問題として捉えられるようにする。</p> <p>○いろいろな記号がある理由について考えられるよう、幾つかの場面絵を用意し記号の必要性に気付けるようにする。</p> <p>○記号の意味を「伝えたい」「知らせたい」という思いをもたせるために、事前に1年生に記号を知っているかどうかの調査をしておき、相手意識を高められるようにする。</p> <p>○友人と交流しながら1年生にも伝わるような報告文を書くことができるようになることが単元の目標であることを伝える。</p> | | | |
| <p>単元の課題 友人と交流しながら1年生にも伝わるような報告文を書こう。</p> | | | |
| <p>2 本時のめあてをつかむ。(1分)</p> <p>○今回の授業を通して、誰に読んでもらうかを考えながら、調べたことを報告する文章を書くことを伝える。</p> | | | |
| <p>めあて 学習の流れを確認して、どのような報告文を書くか見通しをもとう。</p> | | | |
| <p>3 学習の見通しをもつ。(15分)</p> <p>○教科書を読み、学習の流れを確認させる。</p> <p>○報告文が完成するまでの学習計画表を基に、どのような過程で学習が進んでいくのかイメージできるようにする。</p> <p>○最終的に完成させる報告文のモデルを見せ「自分でもできそうだ」という意欲をもたせる。</p> | | | |
| <p>身の回りの記号について関心をもち、1年生に教えてあげようと考えをもつことができる。<発言・ノート(3)></p> | | | |
| <p>4 本時のまとめ・振り返りをする。(4分)</p> <p>○本単元では、相手を意識しながら身の回りにある記号について報告する文章を書くことを全体で再確認する。</p> <p>○次回の学習までに身の回りにある記号を集めておくように伝える。</p> <p>☆1年生に報告するまでの時間が分かった。早く書きたい。</p> <p>☆1年生がよりよく生活できるようにいろいろな記号について教えてあげたい。</p> | | | |

V 本時の展開 (8/12)

- ねらい 友人と文章を見合う活動を通して、相手を意識した文章になっているか内容を推こうし、下書きを見直せるようにする。

2 展開

| 学習活動 (分) | ○ : 留意点 | 点線囲 : 評価 | ☆ : 振り返りの子供の意識 |
|---|---------|----------|----------------|
| 1 本時のめあてをつかむ。(5分) ○本時の活動について学習計画表で説明し、今後の活動の見通しをもたせる。 ○前時に確認した「見直しポイント」について確認する。 めあて 1年生にも分かりやすい報告文になっているか、互いにアドバイスし合い、下書きを見直そう。 | | | |
| 2 課題を追究するために個で考える。(10分) ○前時に使用した「モデル文」を黒板に掲示し、既習事項を振り返らせる。 ○前時に作成した「見直しポイント」のチェックリストを基に、印刷した友人の報告文に直した方がよいであろう箇所に赤鉛筆で書き込ませながら読ませる。 ○「見直しポイント」は「意味が分からないところはないか」「難しい表現はないか」など内容をよりよくするための推こうができるよう、教師が押さえない視点をあらかじめ絞っておく。 ○時間を区切り、推こうに集中できる環境を作る。 | | | |
| 3 グループや学級で、課題を追究するための方法を共有し、焦点化を図る。(25分) ○「見直しポイント」を基に、互いに直した方がよい点について伝え合わせる。 ○修正箇所に対しての疑問を質問し合うことで、文章について考えを深めさせる。 ○友人からのアドバイスを受けて文章を直す場合には、青鉛筆で直すようにさせる。 相手や目的に合った表現になっているか推こうし、文章を整えることができる。 <観察(2)> | | | |
| 4 本時のまとめ・振り返りをする。(5分) ○友人と交流したことで、自分の文章にどのような変化があったか数人に発表させる。 ○次回は清書をすることで文章の完成を目指すことを伝え、意欲を継続させるようにする。 ☆友達と交流したら自分では分からないところに気付くことができた。 ☆1年生には難しいと言われたところを直すことができた。 ☆たくさん直したから早く清書がしたい。 | | | |

V 本時の展開 (12/12)

1 ねらい 単元全体を振り返る活動を通して、報告文を書くときに気を付けることが理解できるようにする。

2 展開

| 学習活動 (分) | ○ : 留意点 | 点線囲 : 評価 | ☆ : 振り返りの子供の意識 |
|---|---------|----------|----------------|
| 1 本時のめあてをつかむ。(1分) ○本時は、相手を替えて報告文を書く活動を通して、文章を書く時に気を付けることをまとめることを伝える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">めあて 単元全体を振り返って、報告する文章を書くときに気を付けることをまとめよう。</div> | | | |
| 2 単元で学んだことを確認する。(30分) ○既習事項を振り返り、単元を通して学習してきたことを確認させる。 ○身近な大人で、記号を知らせたい相手について決めさせる。 ○伝えたい相手を意識しながら、学習した構成や書き方を基に報告文を書かせる。 ○短時間で完成できるように、「調べた理由」「調べて分かったこと」「感想」の三つの構成に絞り、書かせる。 | | | |
| 3 学んだことを一般化して理解する。(10分) ○児童それぞれが書いた報告文はどのようなポイントに気を付けて書いたか意見を共有させ、自身が身に付けた成果として自覚させる。 ○1年生向けに作成した報告文と今回の報告文とでは、どのように書き方が変化したかを発表させる。 ○身に付けた力が、どんな場面で活用できるか考えさせる。 ○意見が出てこない場合は、教師が幾つかの場面例を挙げる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">報告文は、読む人を意識して書き方を考えるとよいことを理解している。 <観察・ワークシート(1)></div> | | | |
| 4 単元全体の振り返りをする。(4分) ○学習を通して身に付けた力と、日常生活の中で活用できそうな場面について再確認し、学習の成果を自覚できるようにする。 ☆1年生のときは、簡単な文章になるように書いたが、今回は大人に報告するから、仕事場でありそうな記号を選び、漢字をしっかりと使うようにした。 ☆報告する文章を書くときには、誰が読むのかを考えて書き方を変えることが分かった。 | | | |

指導計画 小学校国語科 第3学年 単元名 身の回りのことを報告する文章を書こう「気になる記号」(全12時間計画)

| | | | |
|------|--|--|---|
| 目標 | 友人と交流しながら相手に合わせた報告文を書く活動を通して、次の指導事項が身に付けられるようにする。 (1) 文章を簡潔に表現したり、文と文との内容のつながりを明瞭に表したりすること。 【知識及び技能(1)言葉の特徴や使い方に関する事項カ】 (2) 相手や目的を意識した表現になっているか確かめ、文章を整えること。 【思考力、判断力、表現力等 B書くことエ】 (3) 主体的に文章を書こうとするとともに、自分の考えや思いや考えを伝え合おうとすること。 【学びに向かう力、人間性等】 | | |
| 評価規準 | (1) 句読点や段落を適切に表記して文章を書いている。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(エ)】 (2) 相手や目的を意識しながら、推こうしている。 【B書くこと(1)オ】 (3) 身近な記号から題材を探し、文章に書いて伝えようとしている。 【国語への関心・意欲・態度】 | | |
| 過程 | 時間 | ○ねらい めあて | ☆振り返り(意識) ◇評価項目 <方法(観点)> |
| つかむ | 1 | ○日常生活にある記号について考える活動を通して、1年生に伝える報告文を書こうとする意欲をもてるようにする。 友人と交流しながら1年生にも伝わるような報告文を書こう。 学習の流れを確認して、どのような報告文を書くか見通しをもとう。 | ☆1年生に報告するまでの時間が分かった。1年生がよりよく生活できるようにいろいろな記号について教えてあげたい。 ◇身の回りの記号について関心をもち、1年生に教えてあげようと考えをもつことができる。 <発言・ノート(3)> |
| 追究する | 1 | ○自分たちで調査した記号を分類する(色・形・文字など)活動を通して、記号の特徴や意味・伝えるための工夫に気付けるようにする。 色や形、書いてある文字や絵などで記号を仲間分けして、記号のもつ意味や特徴を考えよう。 ○相手や目的を意識しながら記号を選ばせ、選んだ理由を話し合うことができるようにする。 1年生に教えてあげる記号を選び、考えを交流しよう。 ○教科書の報告文を読み、組立てを確認する活動を通して、文章構成を共通理解できるようにする。 報告文の書き方が、どのようになっているのか考えよう。 ○文章構成や、相手・目的を意識させながら下書きを書くことができるようにする。 報告文の書き方を参考にしながら報告文の下書きを書こう。 ○相手を意識した推こうができるよう、教師のモデル文を参考に「見直しポイント」を考えることができるようにする。 1年生が読むためにはどのような文章がよいか、見直しポイントを決めよう。 ○友人と文章を見合う活動を通して、相手を意識した文章になっているか内容を推こうし、下書きを見直せるようにする。 1年生にも分かりやすい報告文になっているか、互いにアドバイスをし合い、下書きを見直そう。 ○互いの推こうを基に下書きを清書し、アドバイスを取り入れながら文章の見直しができるようにする。 アドバイスを参考にして清書し、文章を完成させよう。 ○完成した報告文を互いに読み合う活動を通して、友達のよい点に気付けるようにする。 友達の報告文を読んで、よいところを伝え合おう。 ○1年生に報告した際の様子や感想を基にクラス全体で話し合い、意見を共有することで、学習の成果について気付けるようにする。 学習を通してできるようになったことやもっとしてみたいことについて話し合おう。 | ☆赤色はやってはいけないことが書いてあることが多いと分かった。 ☆安全に来られるように道路にある記号を教えてあげたい。 ☆書く内容によって、段落を分けて書くことが分かった。 ☆1年生に読んでもらうための報告文が書けた。 ☆1年生だから漢字やカタカナには読み仮名を書いてあげればよいと思う。 ☆友達と交流したら自分では分からない所に気付くことができた。 ☆1年生にも伝わりやすいように見やすく丁寧に書くことができた。 ☆友達の発表や文章でよいところがたくさんあった。 ☆相手に合わせた文章が書けるようになった。今度は、大人の人に読んでもらう文章を書いてみたい。 |
| まとめ | 1 | ○単元全体を振り返る活動を通して、報告文を書くときに気を付けることが理解できるようにする。 単元全体を振り返って、報告する文章を書くときに気を付けることをまとめよう。 | ☆文章を書く時には、誰が読むのかを考えて書き方を変えることが分かった。 ◇報告文は、読む人意識して書き方を考えるとよいことを理解している。 <観察・ワークシート(1)> |